

令和5年度 第1回生涯学習センター運営審議会 会議録

- 1 開催日時 令和5年8月21日（月） 9時30分～11時30分
- 2 開催場所 宇都宮市役所14A会議室（宇都宮市役所14階）
- 3 出席委員 19名
坪井委員長，若園副委員長，菊地委員，齋藤委員，上野委員，
寺山委員，阿久津委員，渡邊委員，菊地委員，小曾戸委員，首藤委員，
阿久津委員，稲葉委員，斉藤委員，谷内委員，半田委員，高橋委員，
遠藤委員，上野委員
- 4 会議の公開・非公開の別 公開
- 5 傍聴者 0名
- 6 内 容
・議事
【協議事項】
 - (1) 令和4年度生涯学習センター事業運営の評価について
 - (2) 令和5年度生涯学習センター事業実施状況（上半期）について
 - (3) 令和6年度生涯学習センター事業運営の考え方（案）について

7 発言の要旨

事務局	<p>【生涯学習センター運営審議会について説明】</p> <p>【正副委員長選出について説明】</p>
事務局	<p>本審議会は、委員長と副委員長が決まっておりませんので、ここで、委員長と副委員長を決めていただきたいと存じます。委員長と副委員長の選出につきまして、ご意見がございましたらお願いします。</p> <p>特になければ事務局よりご提案いたしますが、いかがでしょうか。</p>
全員	<p>異議なし</p>
事務局	<p>それでは、事務局からご提案いたします。</p> <p>【事務局より、坪井委員を委員長，若園委員を副委員長に提案】</p>

全員	異議なし
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>異議なしとのことですので、委員長を坪井委員、副委員長を若園委員に決定いたします。それでは、坪井委員長、若園副委員長より、一言、ご挨拶をお願い申し上げます。</p>
委員長	<p>ただいま委員長を拝命いたしました作新学院大学女子短期大学部の坪井真と申します。委員の皆様からの忌憚のないご意見をいただきながら、市民の皆様のためのより良き生涯学習の事業を考えていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p>
副委員長	<p>副委員長を拝命いたしました宇都宮大学准教授の若園雄志郎と申します。昨年度から引き続きまして、より良い議論ができるように尽力していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p>
委員長	<p>それでは、議事を進めて参りたいと思っております。</p> <p>円滑な議事進行ができますよう、委員の皆様のご協力をお願いいたします。</p> <p>まず、協議事項(1)「令和4年度生涯学習センター事業運営の評価について」、事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>【令和4年度生涯学習センター事業運営の評価について説明】</p>
委員長	<p>ありがとうございます。「令和4年度生涯学習センター事業運営の評価について」、説明が終わりました。ただ今の説明につきまして、ご意見、ご質問等ございましたら、お願いいたします。</p>
委員	<p>3点ほどございます。まず、重点項目(1)のうち、指標②「生涯学習センターにおける講座の開催数」について、令和4年度の実績値が138講座とありますが、講座の評価方法について、お伺いいたします。例えば、講座参加者に対する個別ヒアリングやアンケートの実施などを用いて評価をしているのか、ご説明をお願いいたします。</p> <p>また、重点項目(2)の総合評価について、企業等との連携の具体例を教えてください。</p> <p>最後に、重点項目(3)の総合評価について、「学んだ成果を活動につなげる仕組みの充実」の中で、自己の学びを活かして、地域住民が講師として、自主開催した講座がどんなものがあるのか、具体例を教えてください。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。事務局からご説明をお願いいたします。</p>

事務局

まず、1点目の生涯学習センターの事業の評価ですが、生涯学習センターでは、資料に掲載のとおり、各種講座を実施しております。講座実施後には、その都度、アンケート調査を行うほか、連携企業や講師等との意見交換も行い、感想等を把握しています。また、いただいたご意見を元に、今年度の振り返りや、次年度の方向性を検討し、企画へと反映させています。

2点目の連携事業については、青少年対象講座を例にご説明いたします。まず、大学との連携事業として、中央生涯学習センターの「親子のワクワク体験講座」や、東生涯学習センターの「子ども国際理解サマースクール」では、宇都宮大学工学部や同学国際学部と連携し、実施いたしました。また、企業との連携事業として、清原生涯学習センターの「企業体験教室」や、横川生涯学習センターの「ワクワク体験教室」では、(株)キャノンや(株)カルビーと連携して事業を実施し、今後も積極的な大学・企業等との連携を重点に置き、取り組みを進めていきます。

3点目の地域住民が講師となる講座の実施については、例えば、国本生涯学習センターの「10倍楽しむ国本塾」では、宇都宮市文化財調査員による宇都宮の歴史に関する講話や、生産者による新里ねぎに関する講話とねぎみそ饅頭づくりなどを実施しています。この講座では、受講者が身に着けた知識を踏まえて新たに講師となっており、学んだ成果を活動へと繋げています。また、富屋生涯学習センターの「とみや魅力発見 ガイド養成講座」では、地域の魅力を伝える人材養成講座を受講した市民が講師(ガイド)となり、地域の良さなどを発信するといった事業を展開しています。

委員長

ありがとうございます。他にご意見・ご質問はございますか。

委員

重点項目(1)の総合評価にある、「オンライン型の学習の導入」は、素晴らしい取り組みですが、オンライン型講座の受講者の年齢層をお伺いいたします。

事務局

令和4年度は、主にZ o o mを利用したオンライン型講座を実施いたしました。小学生を対象とした講座や、成人を対象とした講座を実施し、受講者の年齢層としては、小学生及び30代から50代の受講が主となります。

委員

ありがとうございます。加えての質問ですが、オンライン型講座は、全体と比較して、どのくらいの割合で実施したのか、教えていただければと思います。

事務局

Z o o mを活用したオンライン型講座につきましては、令和4年度は、中央生涯学習センターで1講座、西生涯学習センターで1講座、北生涯学習センターで5講座実施いたしました。講座全体では、138講座実施したことから、開催数としては、その程度実施いたしました。

委員長

ありがとうございます。他にご意見・ご質問はございますか。

委員 令和4年度に実施した事業に関して、全体を通して、こうした方が良かったという反省点や課題があれば、お聞かせ願いたいと思います。

事務局 令和4年度に事業を実施した中で、新型コロナウイルス感染症の影響により、参集型での実施ができなかったことから、市民へ多様な学習機会を提供するために取り入れた「オンライン」という手法がクローズアップされました。しかし、オンライン型講座の受講環境があまり整っておらず、実際に市が提供しても受講ができないという状況がありました。本日も、皆様にはオンライン型の手法を経験して頂ければと思い、タブレット端末をご用意しておりますが、新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類に移行となり、参集型の講座が実施できるようになったときには、参集型とオンライン型それぞれの利点を踏まえ、講座の実施や受講の状況に見合った実施方法を選択し、両立していきたいと考えております。

委員長 ありがとうございます。他にご意見・ご質問はございますか。

委員 講座受講者の年齢層について、お尋ねします。本日の資料によると、シニア世代や子育て支援関係の講座を多く実施しているようですが、若い世代へ向けた講座がもう少しあっても良いのではないのでしょうか。平日は仕事をしている方が多いため、平日夜や土日の実施というのは難しいとは思いますが、できれば、若い世代が参加できるような時間帯での講座の実施があればと思います。

委員長 ありがとうございます。若い世代へ向けた講座の実施について、事務局はいかがですか。

事務局 平日の日中の時間帯での実施は限られた世代の参加が多い状況であることを課題として捉えております。今後も、主に20代から40代といった世代にも参加していただけるよう、平日夜間や土日の開催を視野に入れて、実施していきたいと考えております。

委員長 ありがとうございます。例えば、社会人の方がオンデマンドという形を用いて、オンライン型で参加できるような講座の実施はあったのでしょうか。

事務局 生涯学習センターで実施した講座においては、社会人の方が参加するためのオンライン講座はありませんでした。

委員長 それでは、今後、社会人や若い世代へ向けた生涯学習センター事業をどう展開していくのかということ課題や改善点として捉えているということで、よろしいのでしょうか。ありがとうございました。

委員長	それでは、協議事項(1)「令和4年度生涯学習センター事業運営の評価について」は、この案を承認するという事で、よろしいでしょうか。
全員	異議なし。
委員長	ありがとうございます。それでは、協議事項(1)「令和4年度生涯学習センター事業運営の評価について」は、承認いたします。
委員長	次に、協議事項(2)「令和5年度生涯学習センター事業実施状況（上半期）について」、事務局から説明をお願いいたします。
事務局	【令和5年度生涯学習センター事業計画（案）について説明】
委員長	ありがとうございます。「令和5年度生涯学習センター事業実施状況（上半期）について」、説明が終わりました。ただ今の説明につきまして、ご意見・ご質問等ございましたら、お願いいたします。
委員	生涯学習センターとまちづくり推進協議会の連携事業の実施について、お伺いいたします。生涯学習センターやまちづくり推進協議会がどのように話し合いをしながら、事業や内容等を決めているのか、また、謝金等の費用は、どちらが負担しているのか、教えていただければと思います。
委員長	ありがとうございます。生涯学習センター所長、いかがでしょうか。
事務局	以前、別の地域のまちづくりに関わっていた事例から申し上げます。地域資源を活用した地域のまちづくりなど、「地域ビジョン」の作成に協力をさせていただいたところですが、地域の代表者の方々と事前に協議し、役割分担しているほか、生涯学習課予算であり、地域発意によって企画された講座等の実施を推進する「地域かがやきプロジェクト（CKP）」事業も活用し、地域住民と、地域資源を再度見直すため、生涯学習としてまちあるきの講座を開催いたしました。以上のことから、講座の事業内容等は、地域の代表者の方々と意見交換をしながら、組み立てていると理解しております。
委員長	ありがとうございます。費用についてのご質問については、「地域かがやきプロジェクト（CKP）」を活用して予算を組み立てていらっしゃるという理解でよろしいでしょうか。
事務局	生涯学習センターとしては、「地域かがやきプロジェクト（CKP）」を活用し、別途必要となる費用につきましては、予算編成時に計上しています。また、地域の方でも、地域まちづくりの組織という形式で予算を組まれていることか

ら、柔軟に組み合わせて実施していく形式になるかと思えます。

委員 まちづくり推進協議会と、地区市民センターは、協力し合っているが、生涯学習センターとまちづくり推進協議会が企画の段階で話し合うということは、聞いたことがなく、地域と関わりが深いとは言い切れない部分があると思えますが、そのあたりのご意見をお聞かせ願えればと思えます。

委員長 ありがとうございます。事務局はいかがでしょうか。

事務局 人づくりやまちづくりは全てつながっていると思っています。そのため、地区市民センターと生涯学習センターの2つの機能を備えており、まちづくりの主体となっているまちづくり推進協議会の方々と、生涯学習を司る職員が一体となり、両者の利点を取り入れた講座を実施してまいります。不足する部分については、生涯学習センターの職員とともに、推進していきたいと考えておりますので、引き続き、ご意見をいただければと思えます。

委員長 ありがとうございます。いわゆる、良い事例をどんどん紹介していくというのが良いのではないかと思います。

委員 各生涯学習センターで実施した事業の概要について、資料1によると、「対象」の欄に、「一般成人」「地区内の小学生」などと記載がありますが、開催時期の前に募集を出すと思えます。募集の際は、どのくらいのパーセンテージで募集をかけているのでしょうか。例えば、30人募集をかけたなら、募集開始時に定員となるのか、定員に満たないのか、募集人数の割合を教えてくださいと思えます。

また、募集開始時に、参加希望人数が定員に満たない場合は、随時募集や追加募集などの形式を取っているのか、お伺いいたします。

さらに、申込は、大抵、窓口か電話かと思えます。働き世代の方は、平日は仕事があり、講座への事前申込や当日の参加が難しいことから、窓口や電話に加え、SNSなどのデジタル技術を活用した申込方法も検討していただくよう、方向性をお伺いしたいと思えます。

委員長 ありがとうございます。募集時期及び募集方法について、事務局からご説明をお願いいたします。

事務局 各生涯学習センターの事業については、年間計画を立案し、各事業の実施時期に合わせて、募集を行っています。一般的には、広報紙「広報うつのみや」に掲載し、発行の約2カ月前から動き出していることから、その編集スケジュールに合わせて募集をしています。また、事業の全てを「広報うつのみや」に記載するわけではなく、地区内の小中学校に募集をかけるほか、自治会の回覧

で募集をかけるなど、講座の内容等により、各生涯学習センターで対応しています。

申し込み方法については、電話やはがき、メールなど、各生涯学習センターによって、様々な手法で行っています。講座の中には、「先着」とするものもありますが、期間を設けて受付し、定員を超えた場合は、抽選を行う場合もあります。定員に満たない場合には、市民からの問い合わせに対応しながら、受付をしています。また、市役所には、「電子申請システム」があり、そのようなデジタル技術の活用も検討していきたいと考えております。

委員

「広報うつのみや」は、新聞を取っていないため、市役所から配送してもらっている市民もいるが、紙ベースだと、例えば、職員募集の時期にのみ、広報紙を確認するなど、なかなか見る機会が少ないと思います。また、夏休みの事業に関して、市のホームページを確認しましたが、「先着」で募集する事業が多い中、見たい記事へたどり着くまで、何段階も踏む必要があり、やってみたくて興味を抱いても、参加できる機会が少ないと思います。事業計画の中に、新規受講者の呼び込みを考えているものがありますが、新規受講者獲得に結びついていない部分があるのではないのでしょうか。また、講座の応募状況をお聞かせ願えればと思います。

事務局

清原地区の事例となりますが、昨年度までは、申込受付日の朝一から先着順で申込を受け付けていました。今年度からは、公平感なども踏まえ、これまでの窓口や電話での受付に加え、受付用メールアドレスのQRコードをセンターの掲示板に掲示して読み込めるようにするなど、新たにメールでの受付も開始し、申込者が定員を超えた場合は、抽選を行うという形式に募集方法を変更いたしました。今年度はこれまで、申込締め切り時点で定員を超えていた講座はございませんでしたので、空きが出た数名分は、締め切り後も継続してご案内をしました。

委員

ありがとうございます。QRコードを目に付くところに出していただくのは、スマホ世代には必要だと思います。何かあっても即座に情報を得ることができるため、ぜひ、今後も目に入るところに置いていただきたいと思います。

委員長

貴重なご意見ありがとうございます。今後の改善点として、清原生涯学習センターの所長からご説明いただいた情報発信の工夫をどんどん進めていくと良いのではないかと考えているのですが、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。他にご意見・ご質問はございますか。

委員

各小学校区には、生涯学習と関係がある、青少年指導員というものがありますので、いろんなノウハウを聞いたり、相談したりなど、ぜひ、各生涯学習センターの事業の実施に活用していただければと思います。

委員長	<p>貴重なご意見ありがとうございます。今後の改善点として、実際に地域で活動する人材の活用というご意見でよろしいでしょうか。</p> <p>ありがとうございます。他にご意見・ご質問はございますか。</p>
副委員長	<p>先ほど、ご説明いただいたQRコードなどのデジタル技術を活用した申込方法につきましては、ぜひ、システムのなところでの充実を図っていただき、拡充していただければと思いますので、お願いいたします。</p>
委員長	<p>それでは、協議事項(2)「令和5年度生涯学習センター事業実施状況(上半期)について」は、この案を承認するというところで、よろしいでしょうか。</p>
全員	<p>異議なし。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。それでは、協議事項(2)「令和5年度生涯学習センター事業実施状況(上半期)について」は、承認といたします。</p>
委員長	<p>次に、協議事項(3)「令和6年度生涯学習センター事業運営の考え方(案)について」、事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>【令和6年度生涯学習センター事業運営の考え方(案)について説明】</p>
委員長	<p>ありがとうございます。「令和6年度生涯学習センター事業運営の考え方(案)について」、説明が終わりました。ただ今の説明につきまして、ご意見・ご質問等ございましたら、お願いいたします。</p>
委員	<p>2点ございます。まず、基本的な考え方のうち、【新規】として取り組んでいく、「リピーターでなく、新規の参加」について、具体的にどのようなことをお考えなのか、お伺いいたします。また、【見直し】として取り組んでいく、「内容を固定せず、参加者の状況やレベルに見合った講座の実施」は、非常に難しいような気がします。例えば、事前にモデルとなる生涯学習センターを選定し、先行して事業を実施することで、その結果を勘案しながら、他の生涯学習センターへ波及させていくという方法を取ることも可能だと思いますが、その辺りはどのようにお考えなのか、教えていただければと思います。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。それでは、新規事業に対する具体的な対応策や、見直し事業に対するモデル事業等の実施による評価などの方策について、事務局からご説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>まず、新規参加者の獲得については、常に課題として捉えています。同じ方が継続的に参加することも必要ですが、やはり、新たな世代や新たな方に生涯</p>

学習センターへお越しいただき、講座に参加していただく機会を提供していきたいというところがありますので、デジタル技術を活用し、若い世代を積極的に呼び込めるよう、取り組みを進めていきたいと考えております。

2点目の、見直し事業につきましては、現時点では、具体的にモデル事業となる講座等を掲げてはいません。この後、予算編成において、改めてどのように次年度の予算を組んでいくか、センター職員と打ち合わせを行います。その中で、もう少し具体的に事業を決めていきますが、まずは、令和4年度及び令和5年度の評価を行い、地域課題等、継続して進めていくべき事業に関しては、継続をさせていただきたいと考えています。

また、講座内容やレベル感につきましては、万人に広く知らせるものを実施する一方、段階に応じて、簡単なものから段々難しいものへと移行していく事業も並行して実施をしていかないと、参加者の足が遠のいてしまいます。そのようなレベル別に対応した講座を実施していくと同時に、土日・夜間の実施など、様々な方法での開催を検討していく必要があることから、センターの実情を踏まえながら、センター職員とともに適宜見直していきたいと考えています。

新規事業については、本日も多くのご意見をいただいておりますが、本当に伝えたい人々の集まりに対し、我々が情報発信をできていないという現状があります。そこでは、情報発信の方法等の検討に加え、市民がなにを求め、必要としているのかを捉えきれていないという2点が課題であると認識していることから、予算編成までには、具体的な事業をもう少し、本課やセンター職員と検討してまいります。委員の皆様からのご意見をいただけますと、ありがたく存じます。

委員長

先ほどの、協議事項(1)の中でも、委員の皆様から貴重なご意見が多数出たかと思いますが、新規事業や見直し事業に関連しているのかなと私は思いました。例えば、社会人や若い世代の参加に関しましては、今までのやり方を見直す必要があると思いますので、事務局にはいろいろお考えいただき、より良い、参加しやすい生涯学習事業を推進していただければと思います。

ありがとうございます。他にご意見・ご質問はございますか。

委員

基本的な考え方のうち、【新規】として取り組んでいく、「SNSの活用など、若い世代へ向けた地域の魅力発信」は、とても良いと思います。できれば、「仲間づくり」というテーマも考慮し、生涯学習センターを通して、若い世代の横のつながりを広げていってもらい、今度は若い世代が地域を活性化する力となってくれればと考えます。地域の魅力発見などの講座の参加者が、70代が多いのも良いですが、若い世代が地域の魅力を知り、参加をしやすくすることも必要です。そのために、どうしたら情報が伝わるのかといいますと、以前、東京かどこかで行ったアンケート結果の中に、若い世代の意見で、「地域に帰りはするが、実際、地域でどのようなことをやっているのかが分からない。」と

いうものがありました。このことから、地域活動に参加したい人に対して、欲しい情報が伝わるような様々な工夫を凝らすことで、少しでも地域に入っていこうとする人が増えてくれれば良いなと思いますので、ぜひ、若い世代を地域へ呼び込むための手段を検討してもらえればと思います。

委員長 貴重なご意見ありがとうございました。ぜひ、事務局の皆様や生涯学習センター職員の皆様には、ご参考にしていただければと思います。
他にご意見・ご質問はございますか。

委員長 それでは、協議事項(3)「令和6年度生涯学習センター事業運営の考え方(案)について」は、この案を承認するという事で、よろしいでしょうか。

全員 異議なし。

委員長 ありがとうございます。それでは、協議事項(3)「令和6年度生涯学習センター事業運営の考え方(案)について」は、承認いたします。

委員長 以上をもちまして、本日予定していました内容はすべて終了いたしました。委員の皆様、円滑な会議の進行にご協力いただきまして、ありがとうございます。それでは、進行を事務局にお返しいたします。よろしく願いいたします。

事務局 坪井委員長、委員の皆様、大変ありがとうございました。
本日、事務局から事務連絡がございます。

【広報誌栃公連第65号、次回の会議日程についての説明】

それでは、以上をもちまして、令和5年度第1回宇都宮市生涯学習センター運営審議会を閉会させていただきます。本日は、長時間にわたり、ご審議をいただきまして、誠にありがとうございました。